

平成29年度水稻生育診断予測事業速報No. 1

(早植栽培 5月25日調査結果)

平成29年5月29日

栃木県農政部経営技術課

 **茎数は多い。ほ場をよく観察し早めに間断かん水に入る。(平年は6月第2半旬)**
 **イネ縞葉枯病の発生量が多いと予想されているので、防除を徹底する。**

1 気象概況<<4月上旬～5月中旬(宇都宮)>>

平均気温は、4月上旬以降5月中旬まで平年より高く経過し、特に4月中旬が1.6℃、5月中旬は1.5℃平年より高くなった。日照時間は4月上旬が平年比93%だったものの、4月中旬以降は平年比100～143%と多照であった。4月の降水量は平年比93%と少なく、4月下旬の県内ダム貯水量がほぼ平年並に確保された。

一部移植作業の遅延が懸念されたが、平年並に行われた。

2 調査結果<<早植栽培、品種：コシヒカリ)>>

(1) 16か所平均(表1-1～2)

ア 苗調査

苗草丈は平年比97%とやや低いものの、乾物重はやや重く(平年比104%)、葉齢は平年並で、充実した苗となった。

イ 本田における生育調査

草丈は高く(平年比108%)、茎数は多い(121%)、葉齢はやや多く(+0.4葉)、葉色は平年よりやや淡い(-0.2)。生育診断値(葉色×茎数)は平年より大きい(116%)。

(2) 分施肥体系の生育(10か所)(表1-1～2、2-1～2)

ア 草丈は27.1cmで平年比109%と高く、茎数は164本/m²で平年比113%と多い。

イ 葉齢は5.8葉で平年より0.4葉多く、葉色は4.1で平年より0.2淡い。

ウ 葉色×茎数値は670で平年比105%とやや大きい。

エ イネミズゾウムシの発生は6か所で確認されたが、発生程度は低い。

オ 分けつ発生率は、主茎第2節分けつが10.6%(平年48.9%)、主茎第3節分けつは81.4%(平年25.7%)で、主茎第2節の分けつ発生率は平年よりも低い、主茎第3節の分けつ発生率は平年よりかなり高い。また、葉面積は0.22m²/m²で、平年

比205%と大きく、乾物重も20.6g/m²と重い【農試調査】。

(3) 全量基肥体系の生育（6か所）（表1-1~2、2-1~2）

ア 草丈は27.0cmで平年比107%と高く、茎数は173本/m²で平年比139%と多い。

イ 葉齢は5.9葉で平年より0.3葉多く、葉色は4.1で平年より0.2淡い。

ウ 葉色×茎数値は694で平年比139%と大きい。

エ イネミズゾウムシの発生は5か所で確認されたが、発生程度は低い。

オ 分げつ発生率は、主茎第2節分げつが10.1%（平年29.9%）、主茎第3節分げつは81.8%（平年25.1%）で、主茎第2節の分げつの発生率は低いが、主茎第3節の分げつ発生率は平年よりかなり高い。また、葉面積は0.24m²/m²で、平年比262%と大きく、乾物重も20.8g/m²と重い【農試調査】。

3 技術対策

5月第2～3半旬は日照時間が少なかったものの、育苗期間中の気温が平年よりも高く経過したことから、充実した苗となった。

移植後の気温は1.0～5.1℃程度高くなり、日照時間も5月第2～3半旬は平年比58～68%であったが、5月第4半旬は129%、第5半旬は139%と多くなった。これにより、水温・地温が上昇して順調に活着した。移植後の好天により茎数は多めに推移している。また、葉齢から判断すると、生育は2～3日程度進んでいると推定される。

気象庁地球環境・海洋部発表（平成29年5月25日）の「関東甲信地方 1か月予報」（5月27日～6月26日の天候見通し）では“気温は高く、降水量は平年並、日照時間は平年並～多い”と好天が予想されている。また、同部発表（平成29年5月25日）の「高温に関する異常天候早期警戒情報（関東甲信地方）」（5月30日～6月8日）では“気温が平年よりかなり高くなる確率が30%以上と見込まれる”と予想されている。今後、葉色×茎数値を適正範囲に維持するために、以下の点に注意して栽培管理を行う。

(1) 水管理

目標とする茎数（穂数）360～380本/m²（目標収量540kg/10a、総粒数30千～32千粒/10a）を確保するまでは、夜間かん水、日中止水（浅水）として水温・地温の上昇を図り、分げつ発生を促進する。

平年の間断かん水開始時期は6月第2半旬である。本年は移植後の好天により茎数は多い傾向にある。ほ場を観察し、目標茎数が確保でき次第、間断かん水に入る。

白未熟粒の発生を防止するとともに、登熟度を高めて良質米を生産するためには、適正粒数を確保することが重要である。初期の茎数が多く、過繁茂気味の生育になると粒数過剰となり、食味、品質の低下を招くおそれがある。適正粒数確保には間断かん水に入る時期が重要となるので、遅れないようにする。

(2) 病害虫の防除

ア イネ縞葉枯病

農業環境指導センターでは、「平成29年度 病害虫発生予報第2号」（平成29年5月19日発表）で、イネ縞葉枯病の発生量はやや多いと予想している。また、「植物防疫ニュース（速報No.2）」（平成29年5月29日発表）では、ヒメトビウンカの麦類ほ場での生息密度は県南は依然として高く（最大で13.5%）、県北でも発生が多くなっており、今後の気温も高いことが予想されていることから、本病の発生拡大を防ぐため、地域ぐるみでのヒメトビウンカ防除（発生の多い地域では、箱施用剤の使用＋本田での薬剤散布）の実施を呼びかけている。

イ イネミズゾウムシ、イネドロオイムシ

イネミズゾウムシの発生が目立つほ場（移植後2週間の水田における成虫密度が株当たり0.5頭以上が要防除水準）では、有効な薬剤により防除を行う。

多雨で湿度の高い日が続くとイネドロオイムシの幼虫発生期間が長引き、多発生になりやすいことから、今後の天候と発生状況に十分注意する。

ウ いもち病（葉いもち）

取り置き苗は、いもち病の発生源となるため、早めに処分する。

(3) 雑草防除

中期除草剤の散布は、使用時期に注意して散布する（移植後30日までのものが多いので、ラベルを十分確認）。なお、MCPB等を含む除草剤は低温、シメトリンを含む除草剤は高温で薬害が発生しやすいので注意する。

除草剤散布時の水管理は、散布直前に水深4～5cmとし、散布後7日間は落水や、かけ流しをしないよう注意する。

※ 薬剤（登録農薬）はラベルの表示を確認して正しく使用する。

栃木県農業環境指導センターHP (<http://www.jpnpn.ne.jp/tochigi/index.html>)

4～6月は「春の農作業安全確認運動」の実施期間です。

高齢農業者の事故が多発しています！以下のことを心がけましょう。

- ・こまめな休息や健康診断の受診等、疲労回復と健康管理の徹底
- ・ヘルメットや安全対策等、事故に備えた服装での作業
- ・複数人での作業を基本とし、一人での作業の場合は携帯電話を持つ

